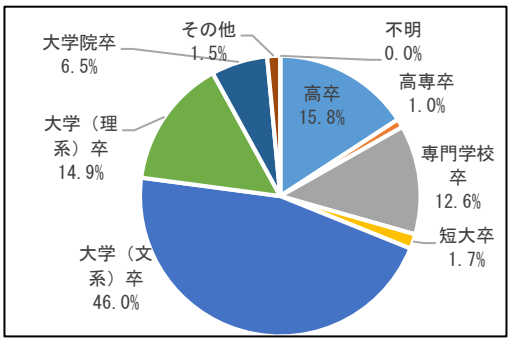
2018 年度　中堅・中小企業の新入社員意識調査　結果概要

●調査対象：東京商工会議所の新入社員ビジネス基礎講座を受講した中堅・中小企業の
　　新入社員　1,047 名【男性 615 名（58.7%）、女性 432 名（41.3%）】
●調査方法：記入選択式アンケート調査
●調査期間：2018 年 3 月 31 日～2018 年 4 月 19 日
●有効回答：1, 047 名（回答率　100%）
※構成比の数値は四捨五入しているため 100%にならないことがあります

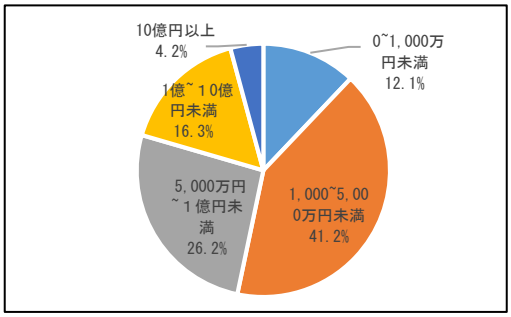
●学歴別受講者分布

全体	1,047	100.0%
高卒	165	15.8%
高専卒	10	1.0%
専門学校卒	132	12.6%
短大卒	18	1.7%
大学（文系）卒	482	46.0%
大学（理系）卒	156	14.9%
大学院卒	68	6.5%
その他	16	1.5%



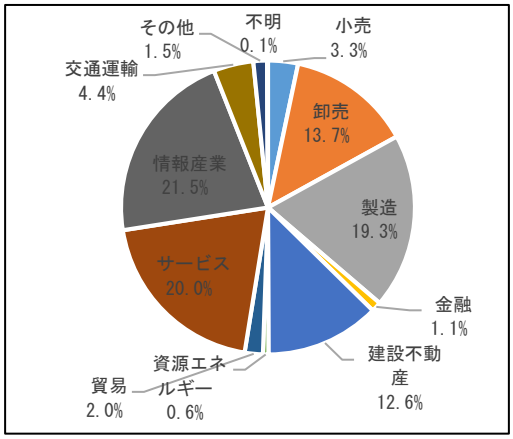
●企業規模（資本金）別受講者分布

全体	1,047	100.0%
0 ~1,000 万円未満	127	12.1%
1,000~5,000 万円未満	431	41.2%
5,000 万円~１億円未満	274	26.2%
１億~１０億円未満	171	16.3%
10 億円以上	44	4.2%
不明	0	0.0%



●企業業種別分布

全体	1,047	100.0%
小売	35	3.3%
卸売	143	13.7%
製造	202	19.3%
金融	11	1.1%
建設不動産	132	12.6%
資源エネルギー	6	0.6%
貿易	21	2.0%
サービス	209	20.0%
情報産業	225	21.5%
交通運輸	46	4.4%
その他	16	1.5%
不明	1	0.1%



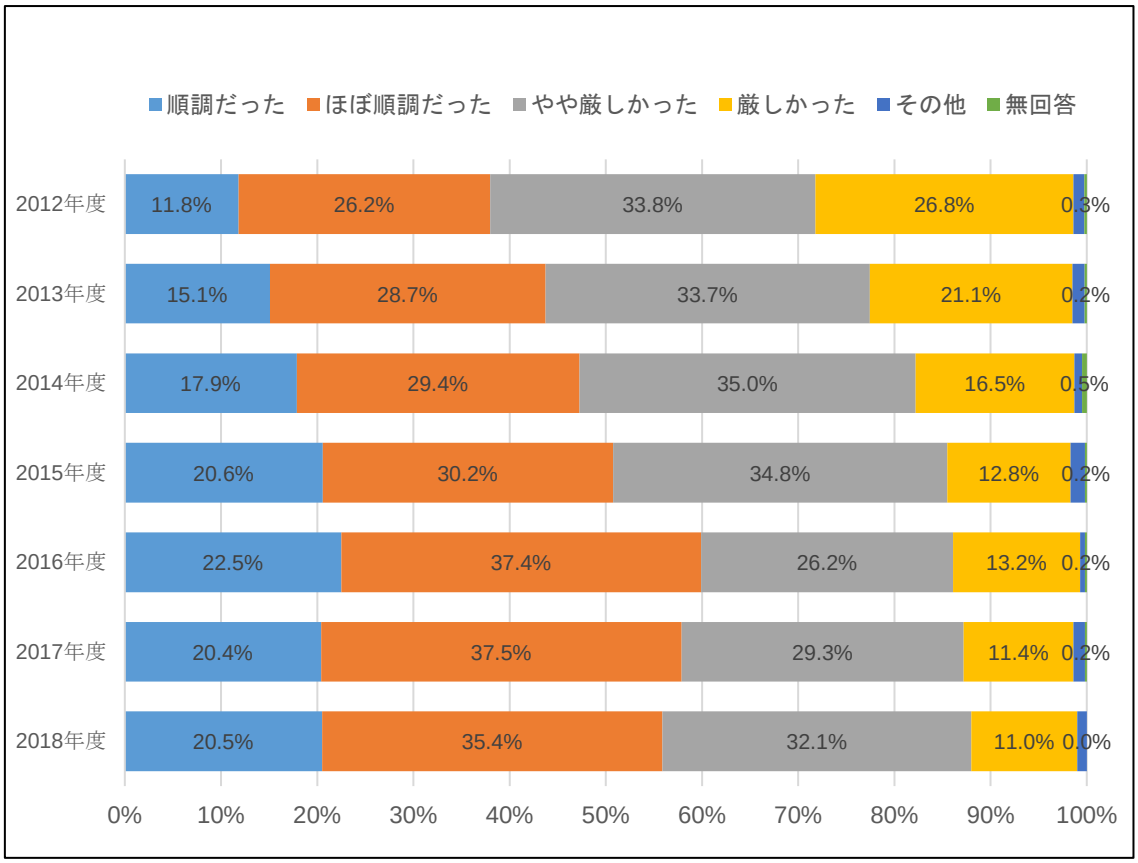
（１）就職活動の感想

⇒２年連続で「やや厳しかった」が増加

学生優位の売り手市場が続くと言われる中で、「順調だった」、「ほぼ順調だった」と回答した割合は２年連続で減少。「ほぼ順調だった」が 35.4%（昨年度比▲2.1%）と減少し、「やや厳しかった」が 32.1%（昨年度比+2.8%）と増加した。

この要因として、就職活動の早期化（P.6～7 参照）、及び企業による採用活動の短縮化が考えられる。学生にとっては、就職活動と学業とを両立しながら、短期間で自己分析や業界研究を行うことへの負担感が増加しており、このような回答結果になったと推察される。

（図１　就職活動の感想）



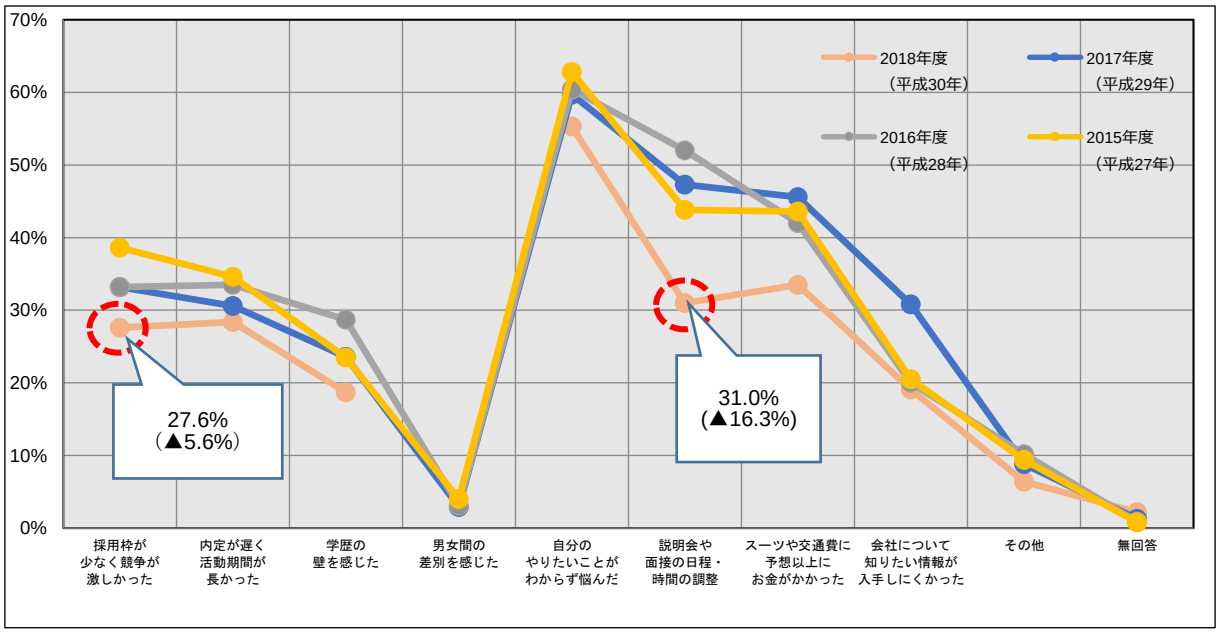
（２）就職活動で苦労したこと

⇒自分のやりたいことがわからずに悩む傾向は変わらず

・「採用枠が少なく競争が激しかった」が 27.6%（昨年度比▲5.6%）、「説明会や面接の日程・時間の調整」が 31.0%（昨年度比▲16.3%）と大きく減少。「自分のやりたいことがわからず悩んだ」が 55.3%で昨年度同様に最も多い結果となった。

・採用枠や説明会・面接の日程といった外部要因よりも、自己分析や会社選びに苦労する傾向は変わらない傾向にある。

（図２　就職活動で苦労したこと）



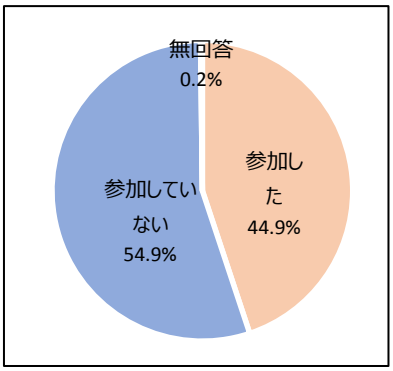
（３）インターンシップ・職場体験の参加

⇒女性（49.8%）が男性（41.5%）を大きく上回る

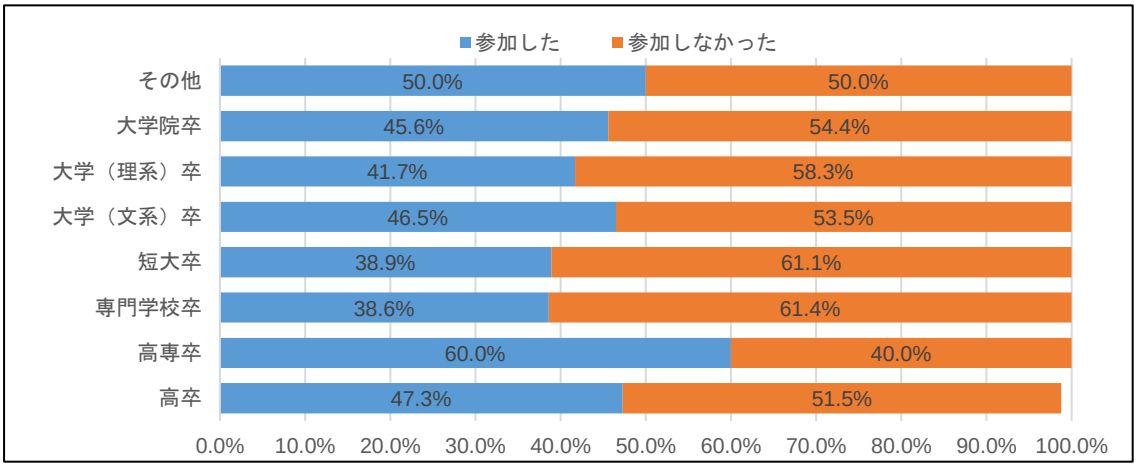
・今年度、新たに調査項目として設けたインターンシップ・職場体験の参加状況について「参加した」が 44.9%,「参加していない」が 54.9%という結果となった。

・男女別では、女性（49.8%）が男性（41.5%）を大きく上回り、資本金別では資本金が 1 億円以上の企業に入社した半数以上がインターンシップ・職場体験に参加した。

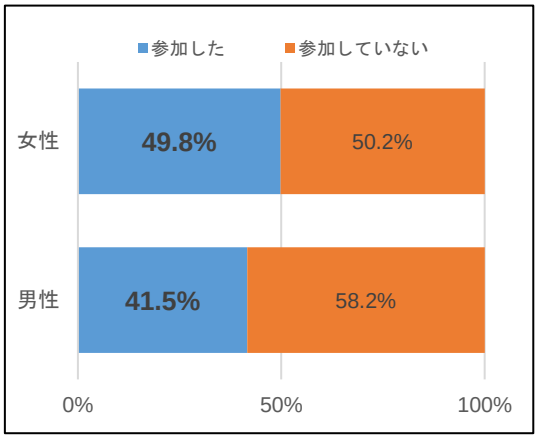
（図３：参加割合）



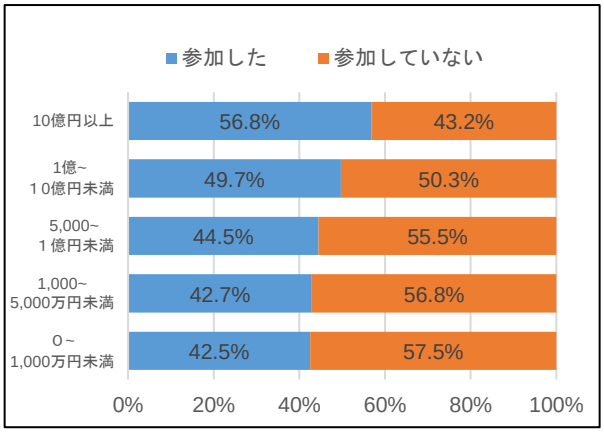
（図４：学歴別　インターンシップ・職場体験の参加状況　）



（図５：男女別）



（図６：資本金別）



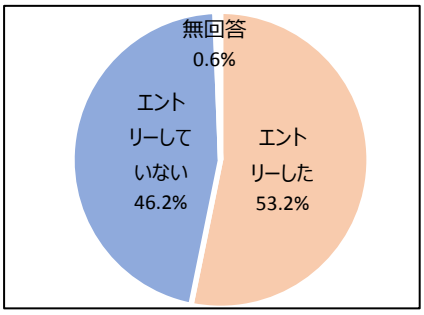
※図 4~6 のデータは、無回答を除く

（４）インターンシップ・職場体験先へのエントリー状況

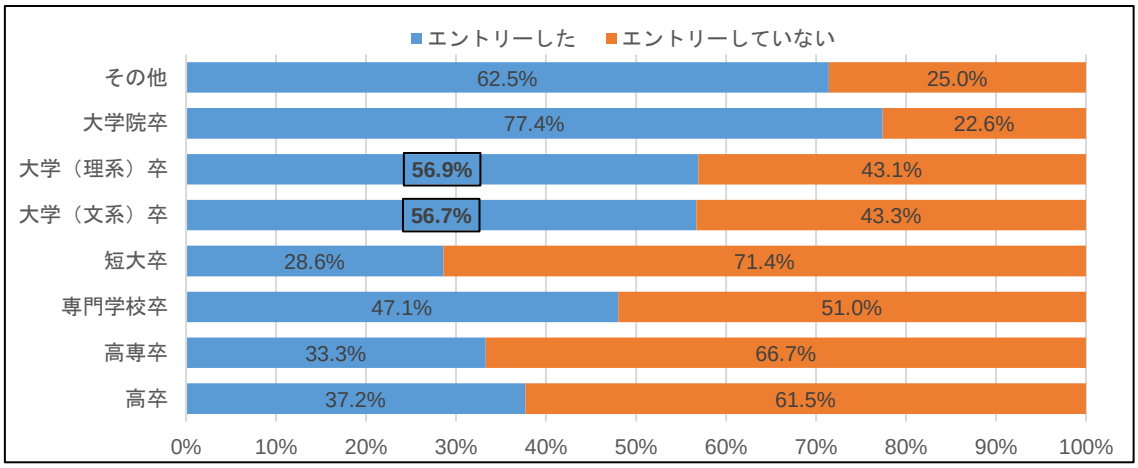
⇒「インターンシップ・職場体験」参加者のうち、53.2%がエントリー

・インターンシップ・職場体験の参加者のうち、
「エントリーした」が 53.2%と、半数以上に達した。

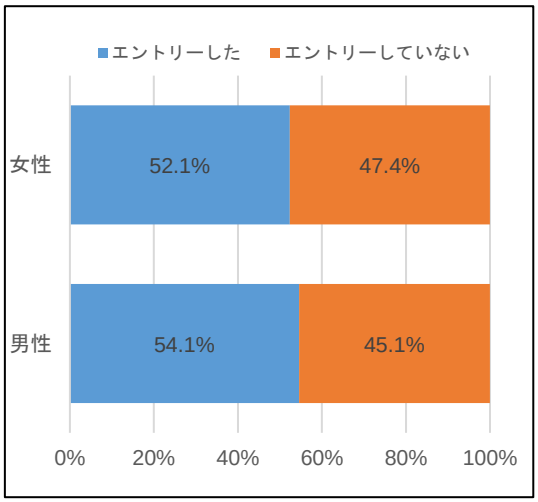
（図７：エントリー状況）



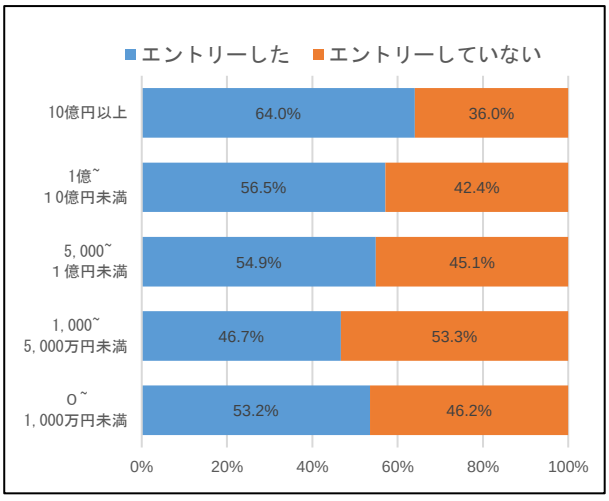
（図８　学歴別　エントリー状況　）



（図９　男女別　エントリー状況　）



（図１０　資本金別エントリー状況）



※図 8~10 のデータは、無回答を除く

（５）就職活動の開始時期と内定について

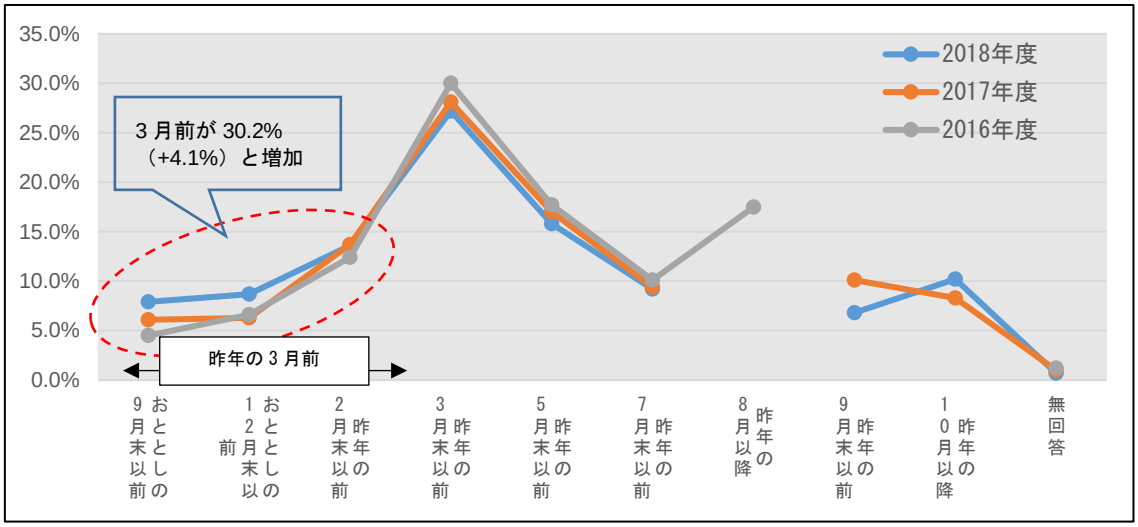
⇒就職活動の開始・内定時期ともに早まる。１人あたりの内定数は６年連続増加

①就職活動の開始時期

・企業の広報活動開始日とされる「昨年の３月前」が 26.1%⇒30.2%と増加した。

・大卒では、「昨年の３月前」と回答した割合は、大卒理系の 30.8%（昨年度比+2.4%）に対して大卒文系が 37.0%（昨年度比＋6.5%）となり、特に大卒文系で開始時期が早まっていることがわかる。

（ 図１１　【全体】就職活動の開始時期）



（ 図１２　【大卒文系】就職活動の開始時期）

		2018 年度		2017 年度		2016 年度	
		件数	%	件数	%	件数	%
昨年の３月前	おととしの９月末以前	47	9.8%	35	7.5%	22	5.8%
	おととしの 12 月末以前	50	10.4%	34	7.3%	33	8.7%
	昨年の２月末以前	81	16.8%	73	15.7%	54	14.2%
	昨年の３月末以前	159	33.0%	161	34.6%	139	36.5%
	昨年の５月末以前	63	13.1%	73	15.7%	64	16.8%
	昨年の７月末以前	26	5.4%	21	4.5%	19	5.0%
	昨年の８月以降					47	12.3%
	昨年の９月末以前	15	3.1%	30	6.5%		
	昨年の 10 月末以降	38	7.9%	35	7.5%		
	無回答	3	0.6%	3	0.6%	3	0.8%

②内定時期

・選考開始日とされる６月１日以前に内定を得た割合が、全体では 17.7%と３年連続で増加。過去 2 年の調査では「昨年の 12 月末以前」が最も多かったが、2018 年度は「昨年の 7 月末以前」（25.7%）が逆転した。

（図１３　内定時期：データ　）

		2018 年度（平成 30 年）		2017 年度（平成 29 年）		2016 年度（平成 28 年）	
		件数	%	件数	%	件数	%
	全体	1,047	100.0%	1,042	100.0%	929	100.0%
選考開始日前	おととしの 12 月末以前	36	3.4%	17	1.6%	13	1.4%
	昨年の 2 月末以前	12	1.1%	15	1.4%	8	0.9%
	昨年の 3 月末以前	23	2.2%	16	1.5%	18	1.9%
	昨年の 5 月末以前	115	11.0%	97	9.3%	63	6.8%
	昨年の 7 月末以前	269	**25.7%**	255	24.5%	149	16.0%
	昨年の 9 月末以前	216	20.6%	242	23.2%	247	26.6%
	昨年の 12 月末以前	246	23.5%	263	25.2%	292	31.4%
	今年の 1 月以降	123	11.7%	132	12.7%	132	14.2%
	無回答	7	0.7%	5	0.5%	7	0.8%

・選考開始日以降の 2 カ月以内の「昨年の 7 月末」までに内定を得た割合は、大卒文系で 48.5%（昨年度比＋6.0%）、大卒理系で 60.9%（昨年度比＋13.9%）となり、就職活動の開始時期と連動するように内定時期も早まっていることがわかる。

（図１４　大卒文系　内定時期　）

	2018 年度		2017 年度		2016 年度	
	件数	%	件数	%	件数	%
おととしの 12 月末以前	13	2.7%	7	1.5%	6	1.6%
昨年の 2 月末以前	2	0.4%	6	1.3%	2	0.5%
昨年の 3 月末以前	6	1.2%	3	0.6%	4	1.0%
昨年の 5 月末以前	56	11.6%	42	9.0%	25	6.6%
昨年の 7 月末以前	157	32.6%	140	30.1%	63	16.5%
昨年の 9 月末以前	92	19.1%	100	21.5%	89	23.4%
昨年の 12 月末以降	94	19.5%	107	23.0%	129	33.9%
今年の 1 月以降	58	12.0%	58	12.5%	60	15.7%
無回答	4	0.8%	2	0.4%	3	0.8%

（図１５　大卒理系　内定時期　）

	2018 年度		2017 年度		2016 年度	
	件数	%	件数	%	件数	%
おととしの 12 月末以前	4	2.6%	6	3.3%	3	1.9%
昨年の 2 月末以前	3	1.9%	2	1.1%	1	0.6%
昨年の 3 月末以前	5	3.2%	3	1.6%	2	1.2%
昨年の 5 月末以前	29	18.6%	27	14.8%	15	9.3%
昨年の 7 月末以前	54	34.6%	48	26.2%	39	24.1%
昨年の 9 月末以前	28	17.9%	48	26.2%	51	31.5%
昨年の 12 月末以降	20	12.8%	36	19.7%	33	20.4%
今年の 1 月以降	13	8.3%	13	7.1%	18	11.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

③内定数

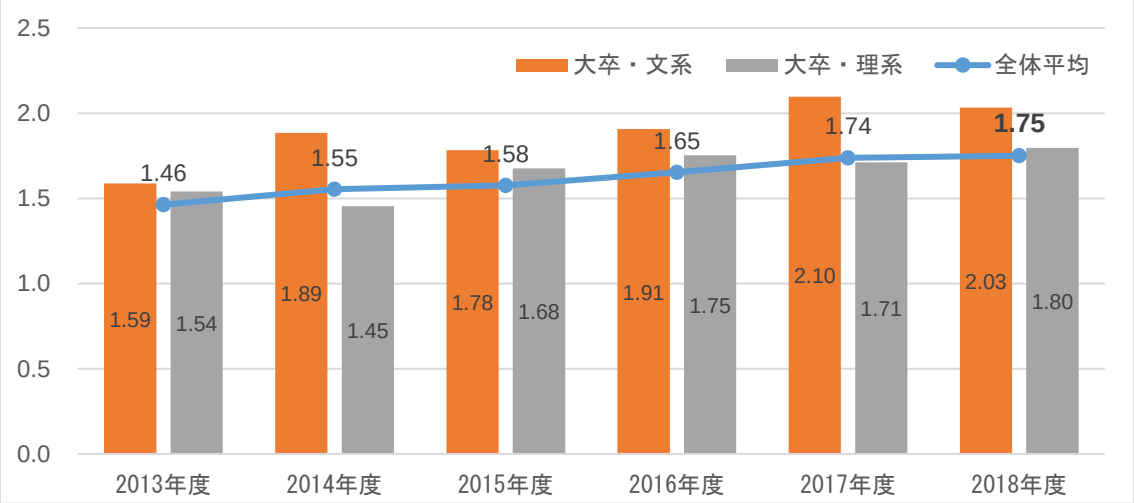
・2 社以上の内定を獲得したと回答した割合は、41.1%と 2 年連続で 40%を超える結果となり、大卒文系では、56.3%⇒56.5%と増加。大卒理系でも同様に 43.7%⇒44.8%と増加した。

（図１６　内定数）

	2018 年度（平成 30 年）		2017 年度（平成 29 年）		2016 年度（平成 28 年）		2015 年度（平成 27 年）		2014 年度（平成 26 年）		2013 年度（平成 25 年）	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
全体	1,047	100.0%	1,042	100.0%	929	100.0%	948	100.0%	872	100.0%	869	100.0%
0 社	1	0.1%	1	0.1%	3	0.3%	1	0.1%	0	0.0%	3	0.3%
1 社	592	56.5%	594	57.0%	563	60.6%	601	63.4%	562	64.4%	590	67.9%
2 社	238	22.7%	234	22.5%	191	20.6%	190	20.0%	177	20.3%	161	18.5%
3 社	122	11.7%	117	11.2%	99	10.7%	93	9.8%	74	8.5%	66	7.6%
4 社	36	3.4%	40	3.8%	34	3.7%	27	2.8%	19	2.2%	21	2.4%
5 社	10	1.0%	18	1.7%	15	1.6%	6	0.6%	12	1.4%	4	0.5%
6 社	9	0.9%	7	0.7%	3	0.3%	4	0.4%	3	0.3%	2	0.2%
7 社	5	0.5%	5	0.5%	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%	0	0.0%
8 社以上	9	0.9%	4	0.4%	4	0.4%	4	0.4%	2	0.2%	2	0.2%
無回答	25	2.4%	22	2.1%	16	1.7%	21	2.2%	21	2.4%	20	2.3%

・１人あたりの内定数は、全体平均で 1.75 社と過去 6 年間で最も高い結果となった。大卒文系では 2017 年度を下回ったが全体平均を上回っており、依然として高水準にあることがわかる。これは、人手不足を背景に企業の採用意欲が高いことや、企業が内定辞退を想定して内定数を多く出していることが要因として考えられる。

（図１７　１人あたりの内定数）



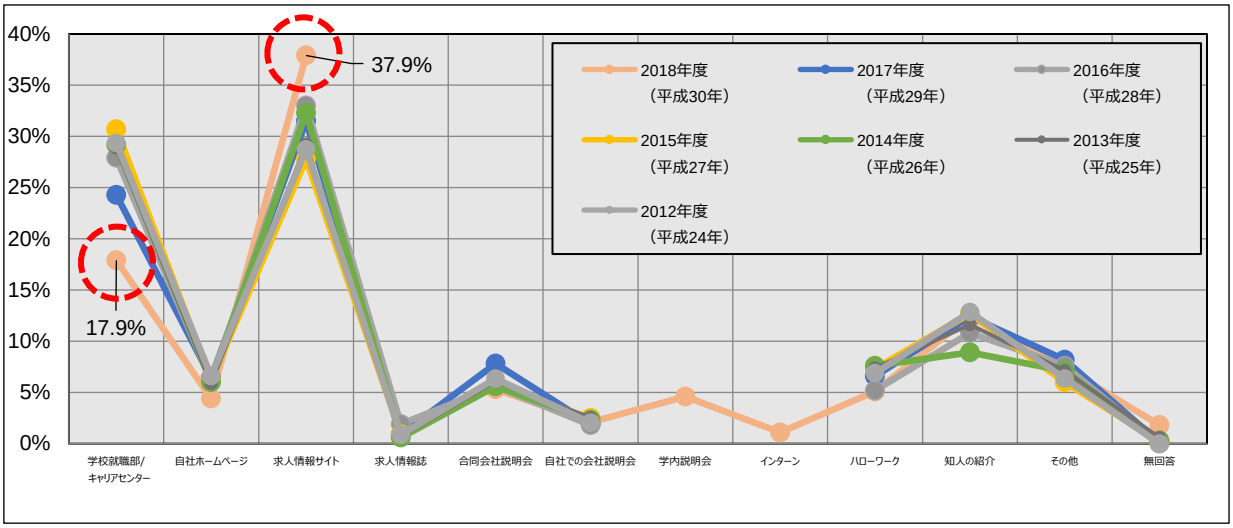
（無回答を除く。８社以上は８社として算出）

（６）入社した会社を知った経緯

⇒求人情報サイトの活用が大幅増加。２位以下を大きく引き離す

・昨年度に続き、「求人情報サイト」の回答が最多となった一方で、「学校就職部/キャリアセンター」が減少した。その他の項目についてはほぼ横這いで推移しているものの、「求人情報サイト」の割合が２位以下を大きく引き離していることから、学生が会社を認知する手段としてその比率がますます高まっている。

（図１８　入社した会社を知った経緯）



	2018 年度（平成 30 年）		2017 年度（平成 29 年）		2016 年度（平成 28 年）		2015 年度（平成 27 年）		2014 年度（平成 26 年）		2013 年度（平成 25 年）		2012 年度（平成 24 年）	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
全体	1,047	100.0%	1,042	100.0%	929	100.0%	948	100.0%	872	100.0%	869	100.0%	787	100.0%
学校就職部/キャリアセンター	187	17.9%	253	24.3%	259	27.9%	291	30.7%	255	29.2%	251	28.9%	231	29.4%
自社ホームページ	46	4.4%	67	6.4%	57	6.1%	59	6.2%	52	6.0%	51	5.9%	52	6.6%
求人情報サイト	397	37.9%	328	31.5%	307	33.0%	264	27.8%	282	32.3%	254	29.2%	226	28.7%
*求人情報誌			9	0.9%	18	1.9%	9	0.9%	5	0.6%	6	0.7%	7	0.9%
合同会社説明会	56	5.3%	81	7.8%	52	5.6%	53	5.6%	49	5.6%	53	6.1%	50	6.4%
自社での会社説明会	22	2.1%	20	1.9%	17	1.8%	24	2.5%	20	2.3%	22	2.5%	16	2.0%
*学内説明会	48	4.6%												
*インターン	12	1.1%												
ハローワーク	53	5.1%	69	6.6%	48	5.2%	69	7.3%	66	7.6%	64	7.4%	54	6.9%
知人の紹介	130	12.4%	129	12.4%	100	10.8%	120	12.7%	78	8.9%	101	11.6%	101	12.8%
その他	77	7.4%	85	8.2%	71	7.6%	57	6.0%	62	7.1%	62	7.1%	50	6.4%
無回答	19	1.8%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.2%	3	0.3%	5	0.6%	0	0.0%

※2018 年度に回答項目を改訂。空欄はアンケート中に回答項目がないもの

（7）入社した会社を選んだ理由

⇒「待遇（給与・福利厚生等）」がやや増加

・「仕事の内容がおもしろそう（46.7%）」、「職場の雰囲気が良かった（35.2%）」、「自分の能力・個性が活かせる（34.6%）」の上位３回答に変動はなかったが、次いで「待遇（給与・福利厚生等）が良い」が 24.2%と昨年度比で 2.9%増加した。

・2013 年度以降は、「待遇（給与・福利厚生等）が良い」が緩やかに増加傾向にある一方で、「自分の能力・個性が活かせる」は 2017 年度より 2 年連続で減少しており、待遇への関心が高まりつつあることがわかる。

（図１９　入社した会社を選んだ理由　データ）

	2018 年度（平成 30 年）		2017 年度（平成 29 年）		2016 年度（平成 28 年）		2015 年度（平成 27 年）		2014 年度（平成 26 年）		2013 年度（平成 25 年）		2012 年度（平成 24 年）	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
回答者数	1,047		1,042		929		948		872		869		787	
合計	2,715	259.3%	3,093	296.8%	2,729	293.8%	2,786	293.9%	2,566	294.3%	2,536	291.8%	2,315	294.2%
自分の能力･個性が活かせる	362	34.6%	386	37.0%	443	47.7%	426	44.9%	388	44.5%	414	47.6%	372	47.3%
待遇(給与･福利厚生等)が良い	253	24.2%	222	21.3%	195	21.0%	200	21.1%	184	21.1%	158	18.2%	135	17.2%
経営者に魅力を感じた	117	11.2%	151	14.5%	169	18.2%	188	19.8%	158	18.1%	170	19.6%	176	22.4%
通勤が便利			134	12.9%	135	14.5%	147	15.5%	145	16.6%	126	14.5%	109	13.9%
将来性･発展性がある	222	21.2%	225	21.6%	254	27.3%	254	26.8%	238	27.3%	224	25.8%	202	25.7%
仕事の内容がおもしろそう	489	46.7%	461	44.2%	463	49.8%	473	49.9%	470	53.9%	454	52.2%	434	55.1%
安定性がある	221	21.1%	270	25.9%	269	29.0%	234	24.7%	215	24.7%	220	25.3%	174	22.1%
学校の先輩･知人がいる	75	7.2%	90	8.6%	93	10.0%	86	9.1%	73	8.4%	82	9.4%	68	8.6%
国際性がある	74	7.1%	65	6.2%	53	5.7%	75	7.9%	59	6.8%	73	8.4%	69	8.8%
学校や先生に薦められた	106	10.1%	120	11.5%	109	11.7%	147	15.5%	119	13.6%	142	16.3%	115	14.6%
社名･商品名が知られている			43	4.1%	36	3.9%	36	3.8%	24	2.8%	25	2.9%	20	2.5%
他に適当な所がなかった			69	6.6%	54	5.8%	43	4.5%	48	5.5%	53	6.1%	51	6.5%
職場の雰囲気が良かった	369	35.2%	410	39.3%	427	46.0%	451	47.6%	407	46.7%	356	41.0%	355	45.1%
採用担当者･社員に好感が持てた	243	23.2%	308	29.6%										
社会貢献度が高い	126	12.0%	114	10.9%										
その他	39	3.7%	23	2.2%	28	3.0%	23	2.4%	35	4.0%	34	3.9%	34	4.3%
無回答	19	1.8%	2	0.2%	1	0.1%	3	0.3%	3	0.3%	5	0.6%	1	0.1%

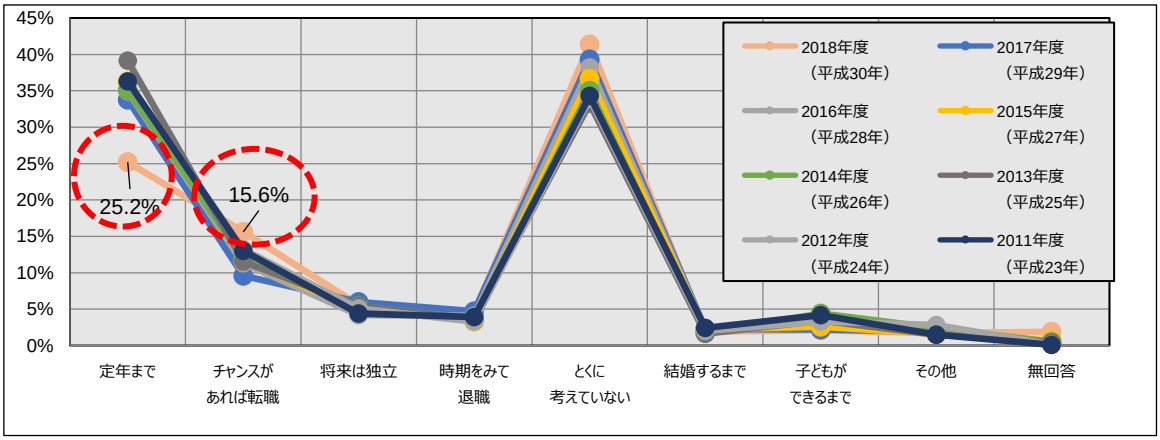
※2018 年度に回答項目を改訂。空欄はアンケート中に回答項目がないもの

（８）今の会社でいつまで働きたいか

⇒女性、「結婚するまで」「子どもができるまで」が過去７年間で最低に

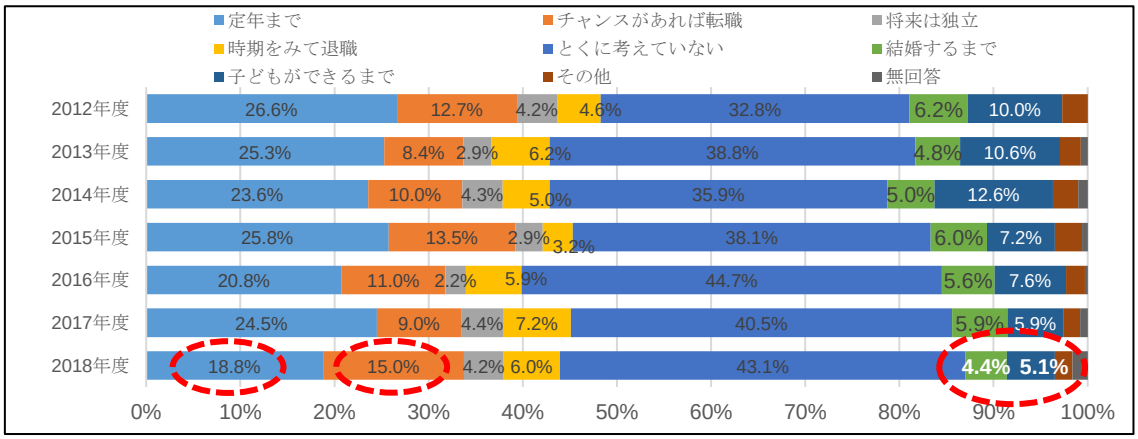
・「定年まで働きたい」が 25.2%（昨年度比▲8.6%）と大幅に減少し、「チャンスがあれば転職」が 15.6%（昨年度比＋6.0%）と増加した。さらに、「チャンスがあれば転職」、「将来は独立」、「時期をみて退職」の合計が 25.8%と過去８年間で最も高く、転職や独立に対する意識の高さが見られた。

（図２０　今の会社でいつまで働きたいか）



・女性についても同様の傾向が見られ、「定年まで」が減少し、「チャンスがあれば転職」が増加した。他方で、「結婚するまで」と「子どもができるまで」の合計が 10%を割り込んだ。継続就業支援や多様なキャリアコースを設けるなどの女性活躍推進に向けた取り組みが必要だと考えられる。

（図２１　【女性】今の会社でいつまで働きたいか）



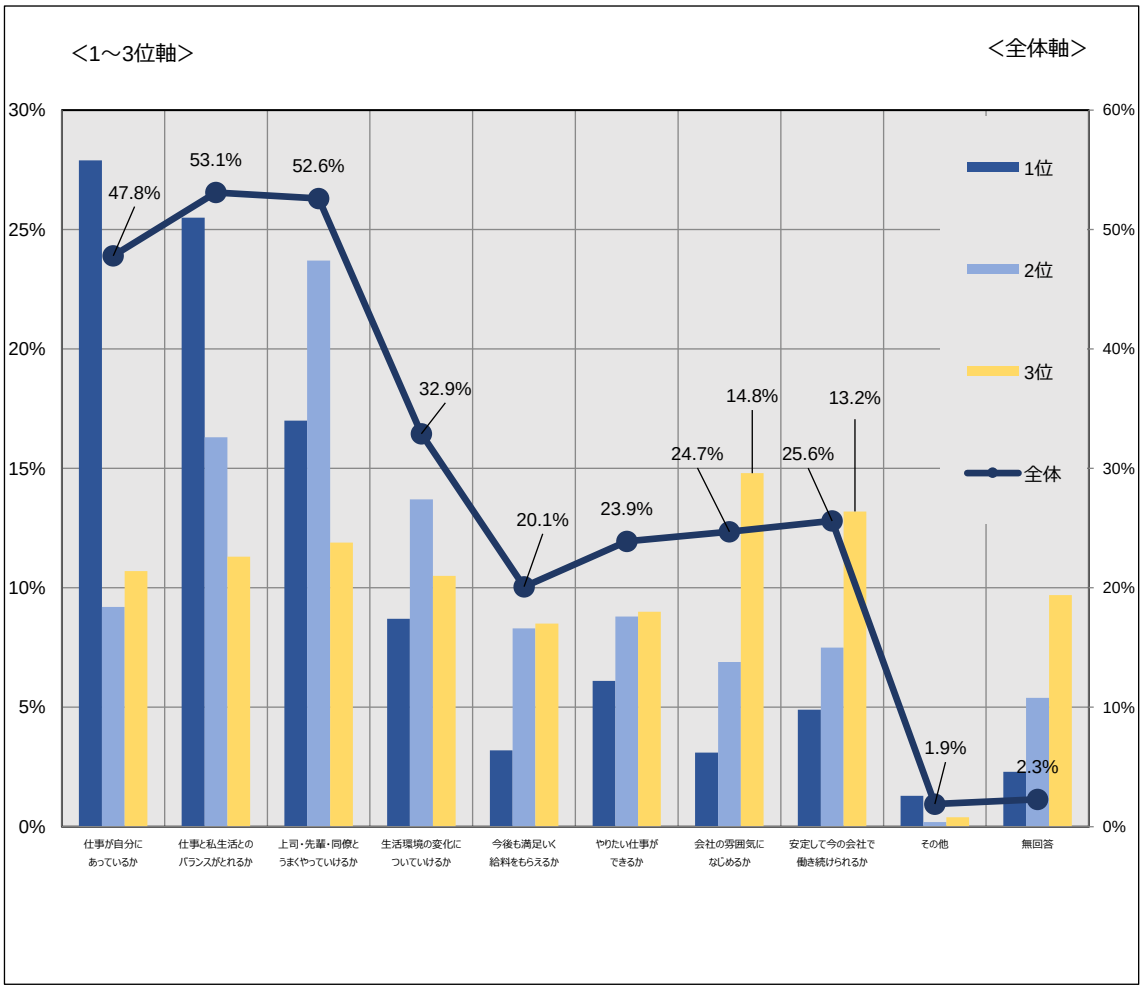
（９）社会人生活を送ることで感じる不安

⇒仕事と私生活とのバランス、社内の人間関係に不安

・全体的には「仕事と私生活とのバランスがとれるか」が 53.1%と最も多く、次いで、「上司・先輩・同僚とうまくやっていけるか（52.6%）」、「仕事が自分にあっているか（47.8%）」となった。

・不安に感じる順でも上記 3 項目が上位を占めたが、3 位では、「会社の雰囲気になじめるか（14.8%）」、「安定して今の会社で働き続けられるか（13.2%）」が大きく目立つ。

（図２２　社会人生活を送ることで感じる不安）



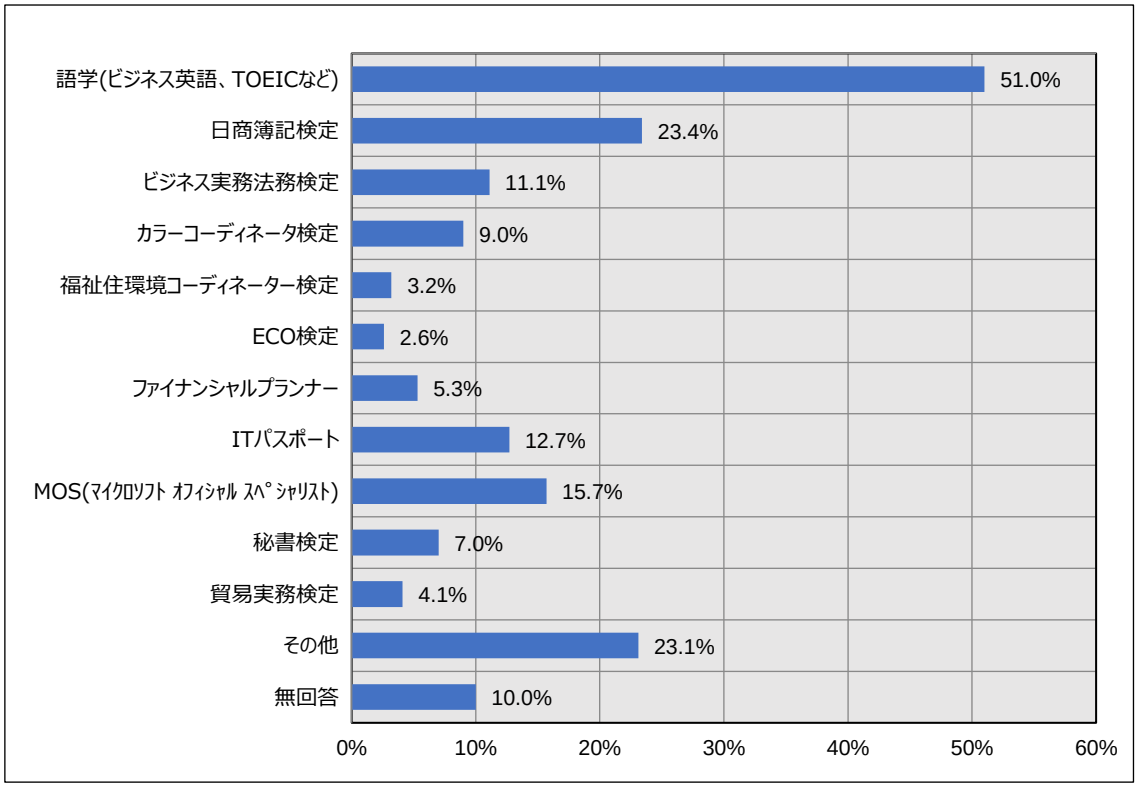
（１０）取得したい民間資格・検定

⇒「語学（51.0%）」が最も人気。IT やパソコン操作への関心も高い。

・商工会議所が行う検定試験を中心に取得したい民間資格・検定を調査した結果、「語学（ビジネス英語、TOEIC など）」が 51.0%と最も高く、次いで、「日商簿記検定」が 23.4% 、「MOS（ﾏｲｸﾛｿﾌﾄ ｵﾌｨｽ ｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ）」が 15.7%の順となった。「語学（ビジネス英語、TOEIC など）」が 51.0%と 2 位以下を大きく引き離す結果となった。

・「IT パスポート」と「MOS」が合計で 28.4%となり、IT やパソコン操作への関心の高さもうかがえる。

（図２３　取得したい民間資格・検定　）



以上